

分担研究報告書

意思伝達困難者を支援する支援者養成に関する研究

研究分担者 今井尚志 医療法人徳洲会東京本部 ALS ケアセンター

研究要旨 意思疎通が困難な者に対する情報保障の効果的な支援のためには、近年急速に発展しつつある情報通信技術(ICT)を用いたツールを活用することは、有力な手段である。しかし、意思疎通が困難な者が、そのツールを十分に活用できるようになるためには、IT 機器の使用に慣れた支援者の継続的な援助が必要とされることが多い。東北福祉大学は10年前から大学教育の一環として、支援者となりうる人材育成を目的とした教育課程を実施している。今回その教育課程を受講した卒業生を対象として Web アンケート調査を実施し、教育課程の効果について検討した。回答が得られた卒業生(回収率 45.3%)は概ね本課程の内容に満足度が高く、一部に本課程で学んだ内容を生かして職業とした者いて、支援者の輪を広げる方法として有用であることが示唆された。

共同研究者

高橋俊史 (東北福祉大学 総合マネジメント学部)

A.研究背景

伝の心やオペレートナビなどの情報通信技術 (Information and Communication Technology, 以下 ICT と略す)を用いた意思伝達装置は、意思疎通が困難な者に対する情報保障のツールとして有用である。しかし、意思疎通が困難な患者は、それらの機器を十分に活用することができず、また、それらを支援する体制も手薄である。実際の支援者としては、それらの機器に精通したボランティアや作業療法士等の専門職種が支援を行ってきた。しかし、十分な支援とは言えない現状であった。

この状況に応えることを目的とし、東北福祉大学は2008年より当事者と家族、医療関係者、地域支援者等の協力の下、文部科学省の教育 GP(Good Practice)プログラムを活用し、支援機器や支援手法を学ぶ課程を作成し、人材育成を開始した(以下、本課程と略す)。本課程では、障害の理解や支援に関する理論などの知識を学ぶ座学と、機器の操作法やスイッチの調整等を学ぶ実習の他に、学生2、3名のチームにて在宅人工呼吸療養の ALS 患者宅(50~70代)を訪問し、経験を積む実習を行った。課程終了後には、地域で意思伝達困難者への支援を実施している NPO 法人より、「重度障害者 ICT 支援コーディネータ3級」の資格認後、上

記資格の認定を受け、卒業している。

B.研究目的

本研究では、東北福祉大学の本課程を終了した卒業生を対象として、支援者養成の効果について調査し、教育プログラムの有効性の検証と修正への一助を目的とした。

C.研究方法

1. 研究対象

本課程の卒業生 56 名を対象とした。

2. 研究方法

Web アンケートによる調査を実施した。なお、調査依頼は、メールと SNS(Facebook, LINE)にて行った。

3. 調査項目

①卒業後の就労(13 項目)、②支援に関する意識(7 項目)、③自分の社会人としての成長(21 項目)、④本課程の満足度(8項目)、⑤自由記述である。(別表1)

4. 調査期間

2017年11月1日から11月14日に実施した。

(倫理面への配慮)

回答者への配慮として、アンケート依頼の際に調査の説明及び回答者が特定されないように配慮すること、回答を途中で中断もしくは、無回答であっても回答者に不利益とならないこと、結果の活用について提示し、同意を得られた場合のみ回答できるように配慮した。

## D. 研究結果

### 1. アンケート調査回収状況

依頼ができた 53 名中 24 名(回収率 45.3%)より回答があった(表1)。

表1. 回答者の属性

卒業年	回答者数	課程終了者総数
2012年	6名	16名(2名不通)
2013年	2名	7名
2014年	4名	11名(1名不通)
2015年	3名	6名
2016年	5名	9名
2017年	4名	7名

※性別は履修状況により個人の特定制となり得たため省略

## 2. 調査結果

### 2.1 課程での学びと就労

卒業後の就労として本課程の学びに関連する福祉関係、機器関連への就労が多く(表2)、また、自由記述として、ALS や脳性麻痺の方と関わりから難病の方を一番近くでサポートできる仕事につきたい、実習で出会った人に憧れてなどの記述があり、学びに関連した就労となっている。また、資格取得および課程での学びの就労への影響については、学びよりも資格取得がより影響度が高い結果であった(図1, 2)。

表2. 卒業時の就労状況

職種	内訳(回答数)
福祉関連(11)	MSW(3), 専門支援員(2), 介護職(2), 相談員(1), 高齢者(1), 福祉職・系(2)
機器関連(2)	福祉機器(1), 医療機器関連(1)
教育関連(2)	特別支援学校教員(1), 教育(1)
その他(5)	団体職員(1), サービス業(1), 郵政(1), 販売(1), 金融(1)
無回答(4)	

### 2.2 課程での学びと支援に関する意識

社会生活の中で ICT 支援に関連する意識については、全項目において9割以上が積極的に関わりたい及び、興味関心が高まったという回答であり、本課程の目

的である支援現状の改善に効果が見られる結果であった。しかし、社会貢献に関して、1名からはあまり関わらないとの回答があった。(図3)。

### 2.3 課程での学びと社会人力

ほとんどの項目において7割以上が身についた、身についた気がする」と回答をしており、教育プログラムとして教育効果がある結果となった。しかし、問題解決力を含む4項目について、7割以上が効果を感じている反面、1名より知識技術が低下したとの回答があったことから、プログラムの内容もしくは、適応者等の検討が必要である結果であった(図4)。

### 2.4 講義に関する満足度

課程全体については、一部の不満はあっても、満足度の高い結果であった。特にフィールドワークなどの実践的な講義の学びの満足度が高い傾向であった(図5)。また、自由記述として座学については、具体的に障害を持った方との関わり方や支援をするにあたってのことを学ぶことができたという回答があった。技術を学ぶ実習については、障害者支援など、具体的な内容を示していただき興味がわいた、もう少し詳しいところもできていれば仕事にも役立った、との回答があった。そして、経験を積むことを目的とした実習については、問題解決への考え方を知ることができた、実際に患者や支援者と関わることが良かったとの回答が複数あり、現場において患者の目線を学ぶことが貴重な経験であることが示唆される結果であった。

### 2.5 課程に関する自由記述

自由記述として、「この過程に参加して本当に良かったと思っています。1年かけて1人の方をしかも在宅で実習を行うことは他の実習ではなかなかできない事だと思うので、本当に貴重な経験になりました。自分が支援をするといよりも実習先の方に育ててもらった実習でした。(一部抜粋)」や「問題解決の為に考え、行動することが大切だということを課程で学びました。(一部抜粋)」、「課程を継続してほしい」を含む9件の回答があった。

## E. 考察

本課程を学ぶことにより、社会生活における支援への関心や社会人基礎力の向上などが見込まれることから、教育プログラムとして効果があると考え。その要因は、自由記述に在宅や病院にて実際に見聞すること、そして、支援を行うことが学びとして強く印象に残ったとの回答があったことから、実際に支援対象者と出会い支援したことが、支援の意義や必要性を学ぶとともに、学びの確認につながると考えられる。そのため、学びの質を維持するためには、実習の受入等の理解を得て、学生が学べる現場を維持していくことが重要であり、学内での講義についても実践的な学びであることを意識付けることが重要である。

また、本課程の履修者の中には、コンピュータがあまり得意ではない社会福祉の専門課程の学生も在籍していたが、課程を終了している。つまり、社会福祉分野の専門職にはコンピュータ等を不得意とする人も多いが、本課程を学ぶことは可能である。したがって、意思伝達が困難な方が機器を活用したいというニーズを有していることは事実であるため、意思伝達装置などの支援があることを、福祉および医療に関わる専門職の学びとして組み込むことは可能であり、必要である。そして、学びをより効果的に活用するためには、資格という形にすることが重要である。そのため、本課程の資格をボランティアベースの社会貢献と同じくするのではなく、卒業生が専門性を持って働ける事業として実施されるように働きかけることが今後の課題である。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的所有権の取得状況

### 1. 特許所得

該当なし

### 2. 実用新案登録

該当なし

### 3. その他

特になし

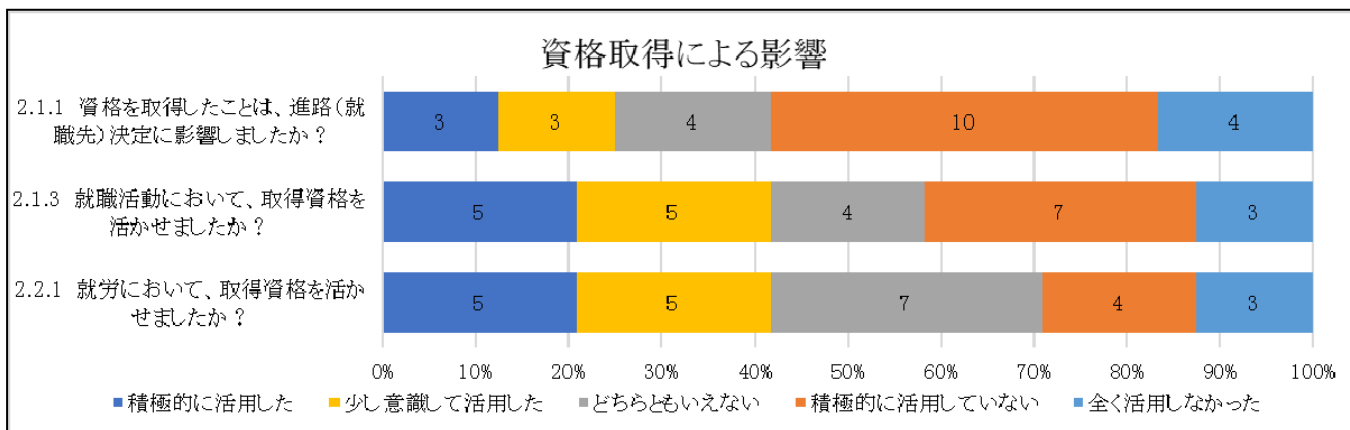


図1. 資格取得と就労に関する回答

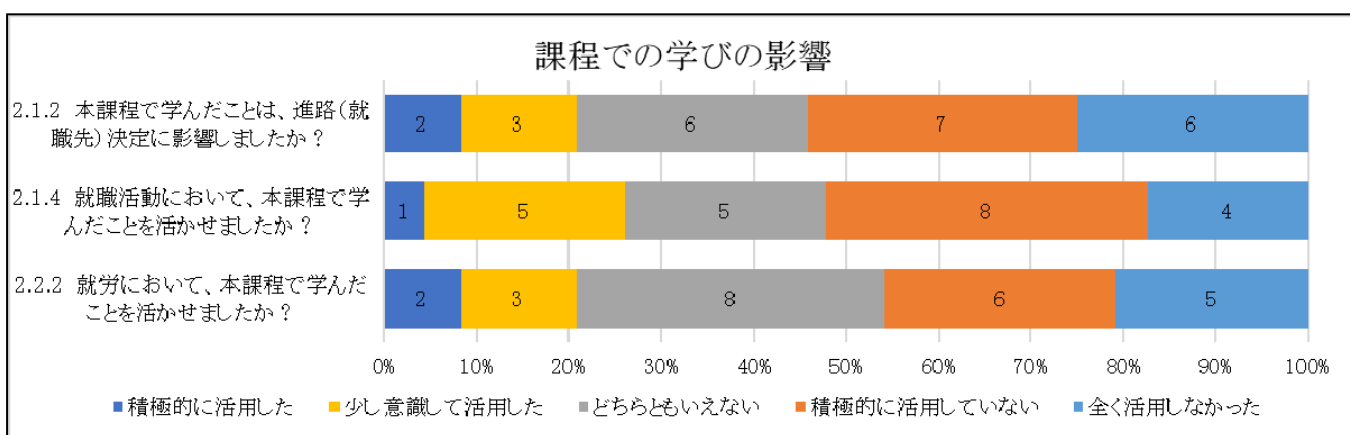


図2. 課程での学びと就労に関する回答

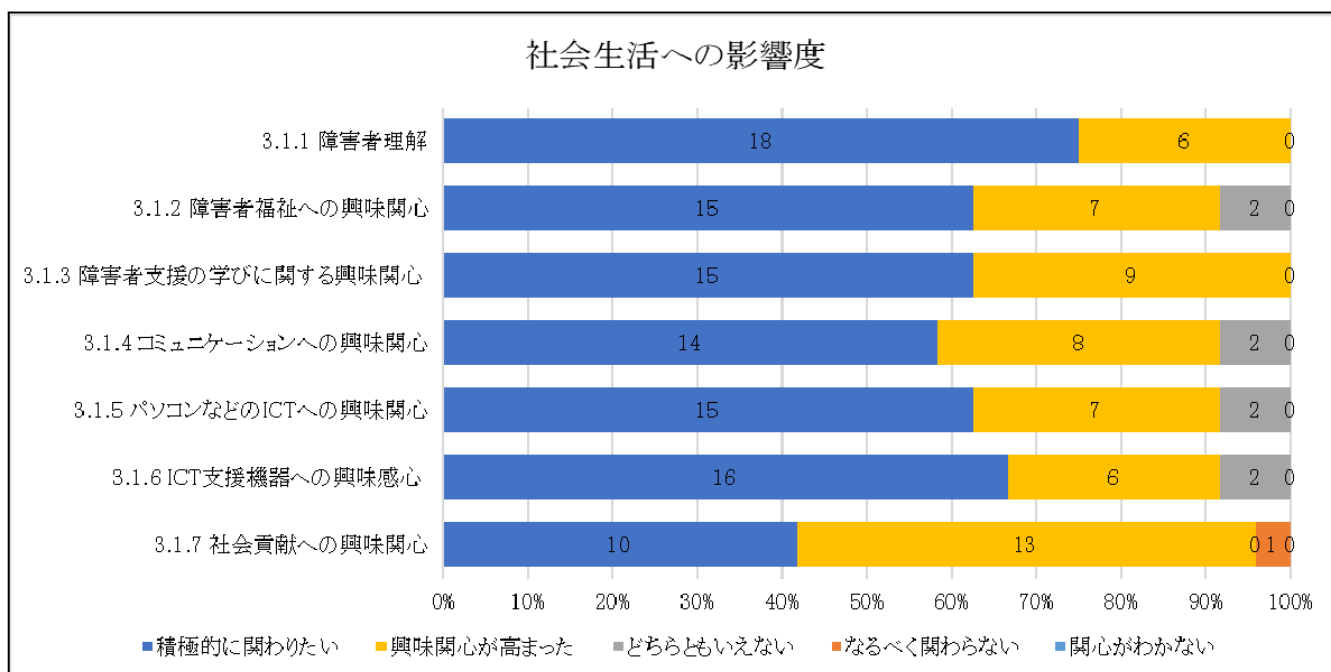


図3. 課程での学びと社会生活に関する回答

### 社会人スキルへの影響度

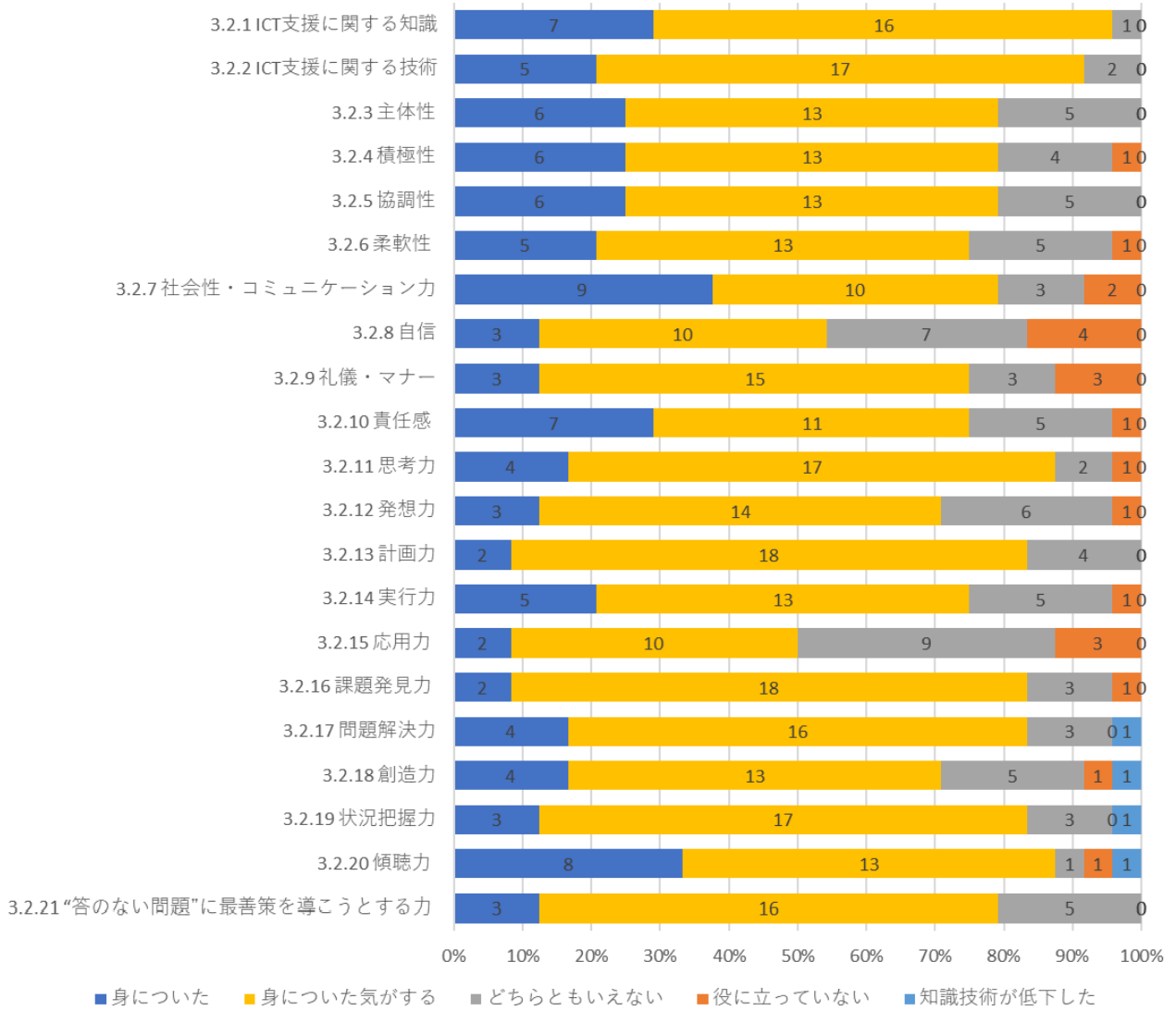


図4. 課程での学びと社会生活に関する回答

### 講義の満足度

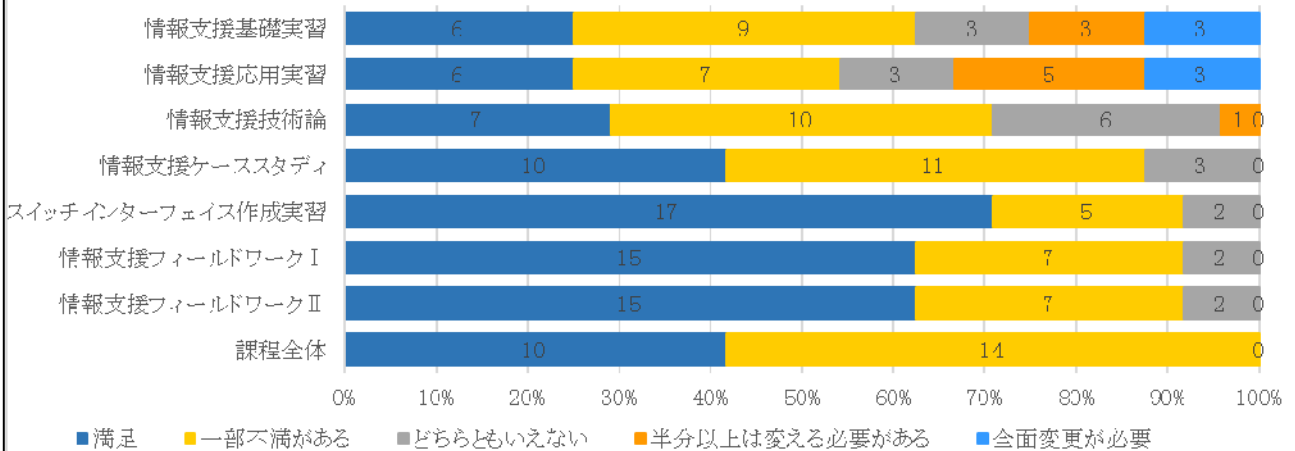


図5. 講義の満足度に関する回答

別表1. Web アンケート調査項目一覧

調 査 項 目		
1 学籍番号の年度表記(任意)		
2 重度障害者 ICT 支援コーディネータ育成課程の学びと就職について		
○ 大学在学中の就活について		
2.1 希望職種・分野(記述式)		
2.1.1 資格を取得したことは、進路(就職先)決定に影響しましたか?		
2.1.2 本課程で学んだことは、進路(就職先)決定に影響しましたか?		
2.1.3 就職活動において、取得資格を活かせましたか?		
2.1.4 就職活動において、本課程で学んだことを活かしましたか?		
○ 卒業時の就職先について		
2.2 卒業時の就労先の職種(記述式)		
2.2.1 就労において、取得資格を活かせましたか?		
2.2.1 就労において、取得資格を活かせましたか?		
2.2.2 就労において、本課程で学んだことを活かしましたか?		
○ 転職後の就職先について		
2.3 転職後の就労先の職種(転職者のみ)(記述式)		
2.3.1 転職において、資格取得は進路(就職先)決定に影響しましたか?		
2.3.2 転職において、課程で学んだことは進路(就職先)決定に影響しましたか?		
2.3.3 転職活動において、取得資格を活かせましたか?		
2.3.4 転職活動において、学んだことは活かしましたか?		
2.3.5 転職後の就労において、取得資格を活かせましたか?		
2.3.6 転職後の就労において、課程で学んだことを活かしましたか?		
3 重度障害者 ICT 支援コーディネータ課程の学びと社会生活について		
3.1 課程での学びと社会生活について		
3.1.1 障害者理解	3.1.2 障害者福祉への興味関心	
3.1.3 障害者支援の学びに関する興味関心	3.1.4 コミュニケーションへの興味関心	
3.1.5 パソコンなどの ICT への興味関心	3.1.6 意思伝達装置などの ICT 支援機器への興味関心	
3.1.7 社会貢献への興味関心		
3.2 課程での学びと社会人力		
3.2.1 ICT 支援に関する知識	3.2.2 ICT 支援に関する技術	3.2.3 主体性
3.2.4 積極性	3.2.5 協調性	3.2.6 柔軟性
3.2.7 社会性・コミュニケーション力	3.2.8 自信	3.2.9 礼儀・マナー
3.2.10 責任感	3.2.11 思考力	3.2.12 発想力
3.2.13 計画力	3.2.14 実行力	3.2.15 応用力
3.2.16 課題発見力	3.2.17 問題解決力	3.2.18 創造力
3.2.19 状況把握力	3.2.20 傾聴力	
3.2.21 “答のない問題”に最善策を導こうとする力		
4 各専門講義の満足度		
4.1 情報支援基礎実習	4.2 情報支援応用実習	4.3 情報支援技術論
4.4 情報支援ケーススタディ	4.5 スイッチインターフェース作成実習	4.6 情報支援フィールドワーク I
4.7 情報支援フィールドワーク II	4.8 課程全体の満足度	
5 課程充実のためのコメント(自由記述)		